

「ベテスダの池」

ヨハネの福音書 5:1~16

1. ユダヤ人の祭り

5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。

ユダヤ人の祭り、これは過ぎ越しの祭りだとか五旬節の祭りだとか言われていますが、筆者であるヨハネはそれを明らかにしていません。なぜなら重要点が他にあるためです。それは後に記されていますが、「安息日」に重点を置いているためです。ユダヤ人のラビ（教師）たちに「イスラエルの祭りで、最も大切な祭りはどれですか？」と尋ねるならば「安息日」こそが最も大切な祭りだと答えます。ユダヤ人の安息日とは、日曜日から始まる1週間の第7日目、つまり土曜日になります。そしてユダヤの日付は夕方から区切られます。つまり金曜日の夕方から土曜日の夕方までがユダヤ人の安息日です。

出エジプト

20:8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

20:9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。

20:10 しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も——

20:11 それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

このように、安息日はあの十戒にも記されている重要な規定です。そして過ぎ越しの祭りや仮庵の祭りなど、ユダヤ人の祭りと重なる時の安息日を、より一層重要視します。そんな安息日の中でも特に大切にされている安息日に起こった出来事について描かれているということをもまず覚える必要があります。

2. ベテスダの池

5:2 さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があって、五つの回廊がついていた。

ベテスダの池とありますが、ベテスダ(בֵּית־סֻדָּא)はヘブル語で「恵みの家」という意味です。あえて「ヘブル語で」と書いてあるのでさぞ重要な意味があるのかと思ってしまうのですが、実は旧約聖書にはこのような名前も場所も存在しません。新約聖書でもここ1回だけです。聖書全体を通して神の家は山、高い場所にたとえられるものです。しかしこれは池、しかも自然のものではなく人工的に作ったため池、つまりプールです。川とも泉ともつながっていません



ん。たしかに神様は恵み深い方です。ですが家が恵み深いというような表現はどこにもありません。ベテスダ、ヘブル語で「恵みの家」、一見それっぽく聞こえるのですが、実態はイスラエルの神様とは何の関係もないことが解ります。そしてそれを決定づける言い伝えがこの池にはありました。

「主の使いが時々この池に降りて来て、水を動かすのであるが、水が動かされたあとで最初に入った者は、どのような病気にかかっている者でも癒される」



御使いが病気を癒すなどということは、聖書のどこにもありません。たしかに水に入ってらい病が癒されたという、アラムの將軍ナアマンの奇蹟が列王記Ⅱ 5章にあります。しかしナアマンはユダヤ人ではなく異邦人で、しかも癒されたのは、預言者エリシャの指示で、池ではなくヨルダン川に7回身を浸したことによるものです。このベテスダの池の言い伝えとはあまりにも類似性がなさすぎます。つまりこのベテスダの言い伝えには、聖書の根拠が全くないとい

うことです。それどころか異教の神々の宗教の影響を強く受けていると考えられます。聖書の知識があれば、これが神様からのものか、そうではない偽りのものであるかを見分けることができます。しかし当時の多くの、いやほとんど全てのユダヤ人たちが、その知識を持っていなかったということです。

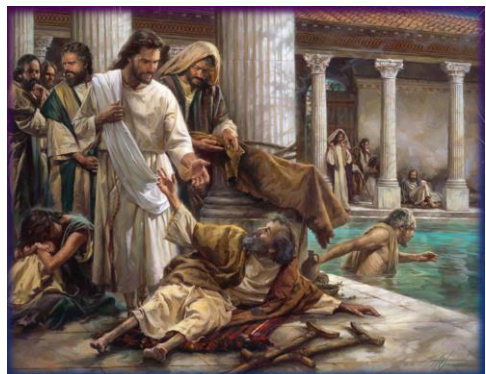
3. 38年の病

5:3 その中に大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せっていた。

5:5 そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた。

5:6 イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」

そんな偽りだらけのこのベテスダの池の周りに、たくさんの病人、盲人、足のなえた人、弱っている人がいたということですが、イエシュアそのような人には目もくれず、ただこの38年もの間、病気にかかっている人だけに声をかけます。彼は一体どんな重い病気だったのでしょうか。これは先ほどのユダヤ人の祭りの名前が明記されていない理由と同じです。つまり病よりももっと深刻な問題に目を向けさせるためです。ではその問題とは何でしょうか。この人について記されている情報は、



38年間病気を患っているということだけです。聖書に記される数字にはすべて意味があると考え、これにヘブル的解釈を加えます。38年は正確に訳すならば「三十と八年」です。つまり30と8に分けて考えます。ヘブル文字はそれぞれ数字が宛がわれていて、30はラーメド(ל), 8はヘット(ח)という文字を示します。この二つの文字が合わさった言葉、ホル(לח)という言葉が隠されています。ホルとは「俗なるもの、一般の、普通の」という意味があります。

レビ

10:9 「会見の天幕に入って行くときには、あなたがたが死なないように、あなたも、あなたとともにいるあなたの子らも、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。これはあなたがたが代々守るべき永遠のおきてである。

10:10 それはまた、あなたがたが、聖なるものと俗なるもの、また、汚れたものときよいものをを区別するため、

10:11 また、主がモーセを通してイスラエル人に告げられたすべてのおきてを、あなたがたが彼らに教えるためである。」

ここで「俗なるもの」と訳されているのが、聖書で最初のホルです。俗なるものとは「汚れたもの」と同義であるということが記されています。そしてそれと「聖なるもの、きよいもの」を区別することが強調されています。イエシュアは確かに多くの癒しの奇蹟をなされました。しかしそれを目的として地上に来られたのではなく、聖なるものと俗なるもの、すなわち神様に聞き従う者とそうでない者を区別する、分けるために来られたのです。それを示すために 38 年もの間、どっぷりとホル、俗なるもの、つまり偽りの言い伝えの中に捕らわれていたこの人を解放するため、つまり聖なるものとして取り分けるためにイエシュアは声をかけられたと考えられます。

5:7 病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」

ここにこの病人の最大の不幸、そしてイエシュアがこの人を癒した理由があります。ベテスダの池に伝わる言い伝え「御使いが水をかき回す時、最初に入った者の病は癒される」その真偽は、最初に水に入ってみれば分かります。癒されても癒されなくてもそこから出て行くことができます。しかしこの人は病のために自分で入ることができず、また入れてくれる人もいないため、結果的にそこから離れることができずに 38 年もその場所と言い伝えに縛られていたのです。

5:8 イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」

そんな俗なるものに縛られていたこの人に対して、床を取り上げて歩きなさい、つまり「ここから床を運び出さない」とイエシュアは言われました。床はヘブル語でミシュカーヴ(מִשְׁכָּב)で、男女の性的な交わり、親密な交わりの場を意味する言葉です。この人が床を共にしていた、親密な交わりを持っていたのはホル、俗なるもの、神様からのものではない偽りの神々の情報でした。たとえ病気が癒されても、そのような偽りと交わり続けるならば、最後に待っているのは永遠の滅びです。ですからイエシュアはその交わりを断ち切るために「床を取り上げて」と言われたのです。

4. 安息日

5:9 すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。

この病の人は、イエシュアの言葉に聞き従いました。イエシュアを受け入れたのです。ここではイエシュアに聞き従うこととは、俗なるもの、偽りの神々の情報を外に運び出してしまふ、捨ててしまふことと同義であると示しています。つまりまことの神様だけに聞き従い、偽りの情報に耳を傾けないということです。しかしど

それが真実でどれが偽りかを見分けるのは容易ではありません。なぜなら偽りとは二セモノ、本物に「似せた物」だからです。

そしてここに先ほど述べた安息日という言葉が登場します。十戒に記された安息日の規定そのものには何の問題もないのですが、これに当時のユダヤ人たちのホル、すなわち俗なる解釈、神様ではなく人を中心とした解釈が掟、しきたりとして付随していました。「口伝律法」と呼ばれる細則が設けられ、もしその細則を破れば、本来の神様が与えた律法を破ったものと同罪とされ、社会から追放されたり、最悪の場合、石打ちによって殺されることもありました。それがユダヤ人のホル、一般的、普通の考え方、いわゆる常識として浸透していました。口伝律法の中でも、安息日に関する解釈の異常さは、群を抜いていました。当時のユダヤ人のラビ（教師）たちの中には、このように教える者もいました。

「神はなぜイスラエルを創造されたのか、それは安息日を守らせるためである」

安息日は次第に擬人化され、この当時すでに安息日は「神の女王」、「イスラエルの花嫁」と呼ばれ、ユダヤ人たちは毎週金曜日の夕方、すなわち安息日の始まりに、会堂の扉を開けて、女王である安息日を迎える歌を歌うようにまできていました。そして更に律法の専門家であるパリサイ人たちはこう教えていました。

「すべてのユダヤ人が、一回でも完全に安息日を守ったなら、メシアが来る」

この安息日に関する偽りの教えは、先ほどのベテスダの池の御使いの癒しの言い伝えよりも更に悪質です。なぜなら根本的には、異教の神々からのものではなく、イスラエルのまことの神様から与えられ、ユダヤ人の誇りとしてその歴史の中で命がけで守り抜いて来た律法からのものであるからです。安息日に関する口伝律法を破ることは、安息日を定められたイスラエルの神様に対する冒瀆だ、そのような者はユダヤ人ではない、と教えこまれば、ユダヤ人としては逆らうことなどできませんでした。

そしてその口伝律法によれば、この 38 年の病だったこの人が、安息日に「床を取り上げて歩く」というのは、当時 1500 を超える安息日に関する口伝律法の一つに違反する行為だったのです。安息日の規定だけでも 1500 以上あると聞いて「バカバカしい」と思われるでしょうか。しかし現在でも正統派のユダヤ人たちは安息日には車を運転しない、物を運ばない、電源のスイッチを押さないなど、私たちには理解し難いような規定を厳格に守って生きています。ただ誤解しないでいただきたいのは、ユダヤ人たちはこの口伝律法を破れば石打ちにされるからとか、いじめられるからというような恐怖心から守っているわけではありません。神様に対する信仰、忠誠心、ユダヤ人としての誇りをもって行っているのです。しかしいづれにしてもメシアであるイエシュアではなく、安息日を女王として迎える、崇める教えは、完全に偽りの教えです。

5. しかし

5:10 そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った。「きょうは安息日だ。床を取り上げてはいけない。」

5:11 **しかし**、その人は彼らに答えた。「私を直してくださった方が、『床を取り上げて歩け』と言われたのです。」

「しかし」この言葉は重要です。この人がユダヤ人の掟、口伝律法を知らなかった、つまり安息日に物を運び出してはならないがことを知らなかった、うっかり破ってしまったとは考えられません。それほどまでに口伝律法は当時の、そして現在のユダヤ人社会に深く重く浸透しているものだったからです。つまりこの人は、それを百も承知で、破ればどうなるかも知った上で「床を取り上げて歩いた」のです。イエシュアがその偽りとの関係を断ち切ったのです。ですからこの人は「口伝律法があるのは知っている、安息日に物を運んではならないことも知っている。『しかし』私はそれではなく私を癒し、『起きて床を運び出せ』と言われた方に聞き従うのだ」と言っているのです。

6. 再臨

5:12 彼らは尋ねた。『取り上げて歩け』と言った人はだれだ。」

5:13 しかし、いやされた人は、それがだれであるか知らなかった。人が大ぜいそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。

ここにイエシュアのユダヤ人たち、イスラエル全体に対するアプローチ、イエシュアの動きが表されています。つまりイエシュアは一度現れ、そして離れてまた再び来られる方であるということが表されています。今から約 2015 年前、イエシュアは、神様が人の姿となって地上に来られました。そしてユダヤ人たちに神の国、すなわち神様のご計画を知らせました。そしてイスラエルの永遠の贖罪のいけにえとして十字架にかかれ、死んで葬られ、シェオール（よみ）に下り、三日目に復活されました。その後天に上られて、そして現在に至ります。そして今日もなお、ユダヤ人たちは『取り上げて歩け』と言った人」イエシュアが誰であるかを知りません。しかしイエシュアは再び来られます。再臨されます。それを表す型が次に描かれています。

5:14 その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」

イエシュアが再び現れた場所、それは宮でした。イエシュアはこれを同じヨハネ 2:16 で「わたしの父の家」と呼んでいます。ベテスダ、恵みの家ではありません。イスラエルの神様だけが崇められる場所、イスラエルの神様だけに聞き従う人々の中にイエシュアは帰って来られます。そのことがここに表されています。ですから当然 38 年の病であった人も、そこに見つけられるわけです。

そしてここに「もう罪を犯さないこと」と「そうでないこと」が対比されて記されています。イエシュアは人を救うために来られる方ではありません。神の国に迎え入れる、聖なるもの、つまり神様に聞き従う者と、迎え入れない俗なるもの、つまり聞き従わない者とをはっきりと区別するために来られるのです。イエシュアが言われる「もっと悪い事」とは、神様に聞き従わない者が下る永遠の滅びでなくて何でしょう。

7. 三つの動詞

5:15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた。

ここにイエシュアの再臨を促す型が表されていると考えられます。ユダヤ人たちは今日に至るまでずっと探し求めているのです。「起きて、床を取り上げて歩きなさい」と言われた方を。実はイエシュアのこの言葉は、

この出来事の中で何度も繰り返し記されています。そこに使われているヘブル語の動詞に注目してみると、重要なメッセージが浮かび上がってきます。

「起きて、床を取り上げて歩きなさい」

- ・「起きる」はクーム(קום)「起こす、起きる、立つ」という意味の言葉です
- ・「取り上げる」はナーサー(אָנָּס)「上げる、運ぶ」という意味の言葉です
- ・「歩く」はハーラフ(הָלַךְ)「行く、歩く、来る」という意味の言葉です

これら三つの動詞を並べてみると、このようなメッセージを導き出すことができます。

神様が「立てた(קום)」計画により、「運ばれて(אָנָּס)」「来る(הָלַךְ)」

神様の契約により運ばれて来るものとは何でしょう。それは本文に記されている「床」に象徴されていると考えられます。床はミシュカーヴ(מִשְׁכָּב)、「親密な交わりの場を意味していると述べました。神様と人が顔と顔を合わせて親密に交わる場所、すなわちそれは神の国、御国です。つまりイエシュアは、38年の病人の癒しの中に、神の国、御国の到来を宣言していたのだと考えられます。

「床を取り上げて歩きなさい」すなわち「神様の立てられたご計画により、運ばれて来る」神の国、御国をもたらす方、「その人は誰だ」と言ってユダヤ人たちは今日も探し求めているのです。その彼らに、この癒された人がしたように「それはイエシュアだ」と告知知らせ、理解させることが必要なのです。

8. 迫害

5:16 このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。

そして「ユダヤ人たちはイエスを迫害した」という、一見神様に敵対するようなこの記述も神様のご計画を表す重要な型です。この「迫害した」と訳されているヘブル語は、ラーダフ(רָדַף)「追う、追い求める」という意味を持つ言葉です。それが聖書で最初に使われる出来事が創世記 14:15 に記されています。

創世記

14:14 アブラムは自分の親類の者がとりこになったことを聞き、彼の家で生まれたしもべども三百十八人を召集して、ダンまで追跡した。

14:15 夜になって、彼と奴隷たちは、彼らに向かって展開し、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバマで彼らを追跡した。

14:16 そして、彼はすべての財産を取り戻し、また親類の者ロトとその財産、それにまた、女たちや人々をも取り戻した。

このように、ラーダフは本来ユダヤ人の先祖であるアブラハムが「自分たちのものを再び取り戻すために」追いかける、という意味で使われています。かつてユダヤ人たちの前に現れたイエシュア、それを王なるメシア

として認めず、かえって彼らはこの方を十字架にかけて殺してしまいました。そのイエシュアを王として、神の御子メシアとして再び取り戻すために「追いかける、追い求める」ことがこのラーダフという言葉の中に隠されている神様のご計画、ユダヤ人がイエシュアを迫害するという型が示す意味だと考えられます。

マタイ

23:39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。』

ユダヤ人たちがこのように声をあげ、ラーダフするその時こそイエシュアが地上再臨される時、そして彼らの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに約束された神の国が実現するのです。御国が来ますように。